

## 拠点型結核相談支援センター

### 県が和歌山病院で3日から開設

県は、8月3日から国立病院機構和歌山病院で「拠点型結核相談支援センター」を開設する。結核は全国で毎年約2万人が罹患していると言われるが、気づかないうちに感染しているケースもあるため、早期発見と早期治療を目指して、電話かファクスで結核に関する相談に応じる。

県の調べでは、県内では年間約200人が結核で発

症しているという。

結核は、薬を正しく服用すればほとんどが治る病気だ。早期発見と早期治療が求められる。

このため、県は誰でも手軽に結核に関する相談が出来るようにと、「拠点型結核相談支援センター」を開設する。開設場所は、美浜町の国立病院機構和歌山病院で、平日の午後1時～4時。直通の電話番号は07

38・32・70333で、ファクスは0738・32・7034。

支援センターを活用する例としては▽身体がだるくて、咳が2週間くらい続き、風邪と言われたがなかなか治らない▽遠方に住む肉親が「結核」と診断された。治療にはどの位の期間がかかるのか▽患者さんが服薬手帳を持参してきたが、どのように記載すればいいのか(医療機関からの相談)▽ほかに病気がある方の場合、結核治療の薬の種類や治療期間を知りたい―などが想定出来るとしている。

## 白衣着て一日看護体験 和歌山病院で高校生ら

独立行政法人国立病院機構和歌山病院は29日、看護師に興味関心を持つ高校生15人を対象に、ふれあい看護体験を行った。

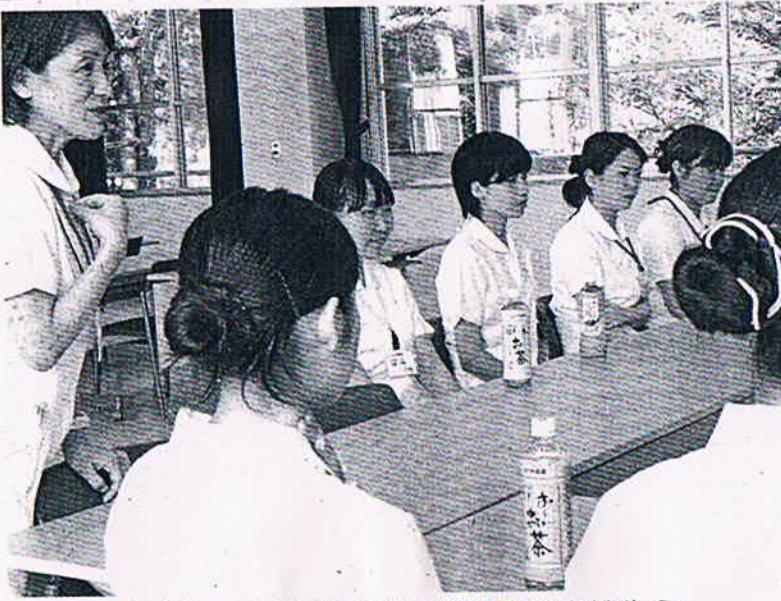
看護師の仕事内容やなるための方法についての講義を聴き、血圧測定や車いすの使い方を演習。一般病棟ではバイタルサイン測定や清潔援助、移送を、重症心

身障害児者病棟では食事やおやつ介助を見学し、患者とのコミュニケーションの仕方を見て学んだ。

高校生らは一日、白衣で過ごした。最後の意見交換会では「看護師の仕事や患者さんの様子を生で見られてよかった」「看護師の気配りがすごいと思った」「以前

から看護師に興味があり調べていたが、実際に体験にきて、思っていたのと違った。身体面だけでなく精神的ケアも必要と分かり、看護師のイメージが変わった。」などの感想を述べ合った。

指導にあたったひとり、坂田尚子副看護部長は「看護師になるにもいろんな方法があります。自分がどうなっていきたいか考えながら、勉強してもらえたら」と話した。



白衣姿で体験の感想を語りあう高校生ら